

①自己紹介

- ・名前:高田ゲンキ(本名:高田 元樹)
たかた げんき
- ・職業:イラストレーター
- ・年齢:34歳
- ・浜岳中学校 出身
- ・最終学歴は東海大学(文学部)卒業
(美大や芸術系専門学校には行かなかった)



イラストレーションとは図像によって物語、小説、詩などを描写もしくは装飾し、また科学・報道などの文字情報を補助する、形式よりも題材に主眼を置いた図形的もしくは絵画的な視覚化表現である。

↑ Wikipedia <http://ja.wikipedia.org/wiki/イラストレーション>

②イラストレーターとは

- ・イラスト(イラストレーション)って何?
- ・絵画(画家)とイラスト(イラストレーター)のちがいは?

→知っているイラストレーター(または画家)はいるか?

→芸術っぽいのが絵画で、マンガっぽい挿絵がイラストだと思われてるコトが多い。

間違ってるとは言わないが、正確ではない。芸術っぽいイラストもあるし、マンガっぽい絵画もある。問題は絵の売り方。

→自発的に絵を描く人が画家。画家が描くのが絵画。絵画は展示会や画廊で売ることもある。

人に頼まれてお金をもらって、主に出版物等のために描くのがイラストレーター。

- ・特別な資格は要らない。
- ・ほぼ全てのイラストレーターがフリーランス

「フリーター」ではない!!

フリーランス (freelance) とは…

特定の企業や団体、組織に専従しておらず、自らの才覚や技能を提供することにより社会的に独立した個人事業主もしくは個人企業法人である。企業から請け負った業務を実際に遂行する本人をフリーランサーと呼ぶ。日本語では自由契約(ただし、プロスポーツでの選手契約を更新しないことを指す「自由契約」が有名なため、フリーランスを指して自由契約と呼ぶことはほとんどない)。一般的な職業分類では個人事業主や自由業に該当する。(wikipedia より)

イラストレーター



イラストレーション

人に「仕事とされるモノ」を作らないといけない

画家



絵画・芸術

自己満足でも可

イラストレーター

村上龍氏の
職業紹介

編集部の
職業紹介

13歳のハローワーク 村上龍氏の職業紹介

雑誌の表紙、挿し絵、書籍のカバーのイラストを描いたり、また、広告のイラストを描く。出版社や広告代理店の依頼により仕事を受ける。必ずしも専門学校や美術系の大学に行く必要はないが、学校で基礎的な技術を学んだり、先生や同級生から刺激を受けたり、そこでの人間関係がのちの仕事に役立ったりと、メリットも多い。まず、出版社の装丁室や、本を作る装丁家、本や雑誌をデザインするアートディレクターに電話し、作品のファイルを持ち込み自作を売り込むところからイラストレーターの道は始まる。独自のイラストが認められて評判になると注文も増え、やがて人気イラストレーターとなっていく。イラスト料は、出版社などは安く、広告の仕事は一桁違うのが一般的だ。仕事は主に家でやることが多く、集中力を持続させなければならぬ孤独な作業だが、街で自分のイラストを使ったポスターを見たりすると、その前を何度も行ったり来たりしながら無上の喜びを噛みしめることもあるそうだ。

③僕がイラストレーターになるまで。

- ・イラストレーターになる道のりは人それぞれ。
- ・美術系大学や専門学校を卒業してからなる人も多い。
- ・高田ゲンキの場合は…↓

大学卒業後もアルバイトをしながら音楽を続けて、デビューできそうなところまで行ったけど、うまく行かず挫折。しかし、パソコンでデザインをするための勉強をして、その技術を認めてもらい**デザイナーとして会社(広告代理店)に就職**。

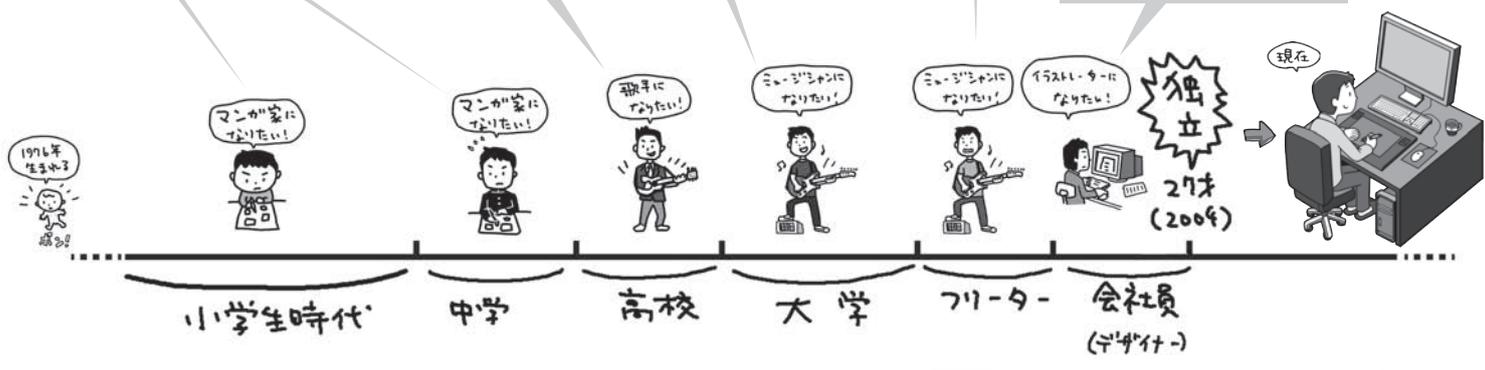
人生、意外に「なんでもやるぞ」だ

小・中学生時代は、「自分は絶対マンガ家になる」と決めて、ひたすら**マンガばかり描いていた**(けっこう上手かった)。

大学時代も音楽にのめりこみ、音楽を本格的にやるために**パソコン(Macintosh)を買った**。ちなみに、普通は大学3~4年で就職活動をするが、僕は全くしなかった(音楽でプロになるつもりだった)。周りからはバカだと言われた。

高校時代はギターにのめりこみ、「絶対歌手になる」と決めて、弾き語りしまくってた(まあまあ上手かった)。

会社員時代に、イラストレーターという仕事を知り、自分の「マンガ」と「デザイン」の技術を組み合わせれば、「イラスト」になる!…と気づき、1年間パソコン準備をして**2004年に会社を辞めてイラストレーターになる**。



→いろいろやってみたのはずいぶん前ではない!!

④イラストレーターになった後(1)

・フリーなので、最初は、何もしないと全く仕事来ない。仕事来ないとお金ももらえない。→あたりまえ

・仕事をもらうためには何をすべきか? → **売り込み** ※売り込みのことを「営業」とも言う。

本屋さんなどで、自分のイラストが合いそうな雑誌や本を探す(雑誌や本の最後のページなどには編集部との連絡先が載っている)。

・売り込みのために必要な物。

出版社の編集部で電話をかけてみる。最初にキチンと名乗って、イラストの売り込みの用件であることを伝える。たいてい、親切に取り次いでもらえる。

運が良ければ編集部の担当者に直接会ってもらえる。その場合は出版社(主に東京)までファイルを持って行く。相手が忙しくてあってももらえない場合はファイルを郵便で送る場合も多い。

こういった「売り込み」を諦めず何回も(場合によっては何十回も)するうちに、少しずつ仕事もらえるようになり、がんばって良い仕事をして気に入ってもらえれば、その後も何度も仕事をくれるクライアント(お客さん)が増えてくる。

あとはホームページを見た人から仕事来ることもある!!

⑤イラストレーターになった後(2)

・仕事が次々に来るようになると、主に電話とインターネット(メール)でやり取りをする。

時々(月に1〜2回)東京にうちあわせにも行く

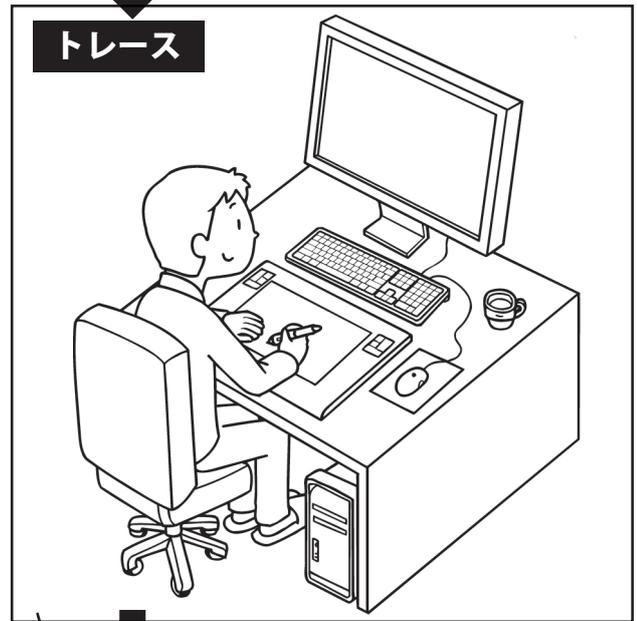
1. クライアント(出版社など)からメールが来る



2. スケジュール・内容・金額を確認して返信する



3. ラフ(下描き)を鉛筆で描いて、メールで送る



4. ラフのOKが出る(あるいはラフの修正をする)



5. イラストをパソコン(Macintosh)で仕上げメールで送る



6. 後日、銀行口座にお金が振込まれる



主に、こういう仕事のやり取りを
月に何回も(時には何十回も)する。

⑥フリーランスのライフスタイルの良いところと大変なところ

良いところ

たのしい〜!



好きなことを仕事に出来るので楽しい!
やりがい、感じます!!



自分の家で仕事ができる!
だから、通勤の満員電車もない!



働けば働いただけお金をもらえる!



朝寝坊しても怒られない



インターネットを通して世界中の人と仕事できる
英語、勉強します!

大変なところ

けして「イヤなこと」ではないヨ!



仕事が忙しい時期はメ切に追われて寝る時間も無い場合も



仕事が少ない時はお金も少ない



お金や伝票の管理も全て自分でしなくてはならない



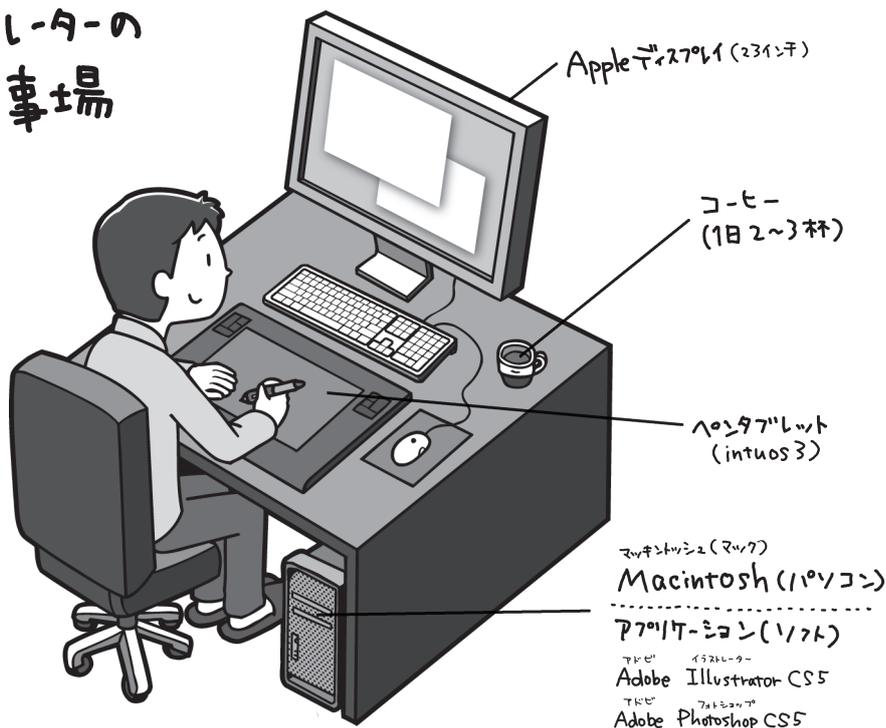
健康管理もすべて自分の責任!
健康のためにジョギングをしています!



様々な分野の新しい情報を常にチェックして、トレンド(流行)に敏感に対応する!

古くさい絵になると、仕事ももろくない!!

イラストレーターの仕事場



他に、フリンター スキャナー等